

各分科会の見どころ&聞きどころ

ここでは、各分科会における特徴的な研究発表と日頃の安全衛生活動のヒントとなる事例報告、講演等をご紹介します。

リスクアセスメント/ マネジメントシステム分科会

はさまれ・巻き込まれ災害撲滅のリスクアセスメントに関する研究発表、トップが自ら参画し、構築していったOSHMSの体験談。また、OSHMSと日常の安全衛生活動をテーマとしたシンポジウムを開催。

安全管理活動分科会2

多様な雇用形態に応じた安全管理体制の強化のための調査研究発表、「失敗は予測できる」と題し複雑な大規模システムへの対応、「錯覚」をデモンストレーションを交えて解説する2講演。

機械・設備等の安全分科会

クレーン作業をハード+ソフト両面から考察し、災害防止策を検討した研究発表、地元埼玉のもののつくり大学学長による「ものづくりの楽しさを原点としたテクノロジスト養成の大切さ」に関する講演。

化学物質管理分科会

研究開発業務における業務改善につながる化学物質管理に関する研究発表、ナノマテリアルの安全対策報告、化学物質管理の現状と今後の方向、GHS対応と今後のあり方について、最新の法令情報を取り入れた2講演。

交通安全分科会

企業が取り組む交通安全として、映像記録型ドライブレコーダーの活用方法に関する研究発表、パリ・ダカールラリー総合優勝の増田浩氏による運転中にドライバーの腕にかかる「重さ」をテーマとした講演。

健康づくり分科会

企業で取り組むメタボリックシンドローム対策、女性社員の健康支援の取り組みに関する研究発表、「わかつちやるけど痩せられない」と題し、痩せられない理由と健康管理と企業コストに関する講演。

安全管理活動分科会1

労働安全衛生法が適用となって5年が経過した国立大学の安全管理活動に関する研究発表、日本初の有人宇宙施設「きぼう」の安全管理の実例、四川飯店の陳建一氏による「奥義の継承と進化」の2講演。

安全衛生教育分科会

現場に即した教育教材の開発とその効果に関する研究発表、早大ラグビー部中竹監督による「最強組織育成」、東京理科大学伊丹教授の「人材育成と企業戦略」の2講演。

中小企業分科会

「現下の経済情勢における中小企業の取り組むべきこと」と題したシンポジウムのほか、「安全体感道場」の紹介や、中小企業の技術を結集した人工衛星「まいど1号」開発の講演。

ゼロ災運動分科会

ゼロ災運動の理念を、地域活動にまで発展させた取り組み、医療現場からのKY活動の効果に関する報告、元オリンピックマラソン選手の宇佐美氏による「スポーツから学ぶ災害防止の人づくり」の講演。

労働衛生管理活動分科会

企業で取り組むAED教育、リスクアセスメント手法を取り入れた衛生活動、衛生管理者が抱える悩みや地域支援の活動報告、リスクマネジメントの視点からこれからの労働衛生をテーマとした労働衛生週間60周年記念講演。

メンタルヘルス分科会

スタッフや家族との連携によるメンタルヘルス対策に関する研究発表、抑うつ・疲労と脳血流変化の相関に関する報告、事業者による支援が望ましいとされた改訂版「職場復帰支援のための手引き」について検討会委員による講演。

リスクアセスメント/マネジメントシステム分科会

会場 リリア(川口総合文化センター) メインホール 川口市川口3-1-1

交通 JR線川口駅西口から徒歩1分(5ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:40開場)

10:00

特別報告

トップからみたOSHMSの効用

古河電工産業電線(株) 監査役
(前 古河電工(株) 千葉事業所長)

隈部 融

事業所が目指す安全衛生の実現に向け、トップ自らがスタッフ対象の研修を受け、JISHA認定の取得を選択し、システムの構築・運用を進めていった経験を語る。

10:40

1 リスクアセスメント 現場実施の挑戦

西日本旅客鉄道(株) 大阪支社
大阪電車区 運転士
山内 健太郎

評価手法など技術論に終始するのではなく、リスクアセスメントを継続して活用していくために、運転士の生の声を吸い上げ、「現場の問題を現場で解決する組織・仕組みづくり」から始め、想像力・現場力を発揮できる職場風土の改革に取り組んだ。

(11:00~11:10休憩) 11:10

2 OSHMSのさらなる 深化に向けた基盤整備

東京ガス(株) 袖ヶ浦工場
総務部計画環境保安グループ 主幹
生田 秀樹

OSHMS導入5年となるが、次第に表面的なPDCAサイクルに留まる等、システムの有効性の低下が顕在化したため、システムを再構築し、管理規制型から自主自立誘導型への変革を図り、従前以上に自律した取り組みを推進する新たな基盤整備を行い、システムをさらに深化させた。

11:30

3 ソニーグループの OSHMSと防災管理

ソニーファシリティマネジメント(株)
セーフティーエンジニアリングセンター
安全防災ソリューション部防災課 統括課長
斎藤 美治

ソニーグループでは、労働安全衛生マネジメントシステムの中で取り扱うリスクの対象を、労働安全衛生上の災害リスクにとどまらず、火災・地震・サイトセキュリティ等を取り込み、OSHMSと防災管理を一体的に、効果的且つ効率的な活動を行なっている。

11:50

事例報告

筑波研究所のOSHMS活動

住友化学(株) 筑波研究所
筑波研究所長

服部 誠

「確固たる安全基盤をもつ研究所」づくりを目指し、その手法としてOSHMSを導入し安全衛生活動を実践してきた。それらの取り組みと活動事例について紹介する。

(12:30~13:30昼休み) 13:30

4 稼働範囲内での挟まれ 巻き込まれリスク低減活動

新日本製鐵(株) 鋼管事業部 光鋼管部
熱押・特殊管工場 班長
山田 一信

当部内で最も重篤災害と予知されるのが、挟まれ巻き込まれ災害である。この災害を防ぐため、稼働範囲内立入り作業の安全措置活動取り組み計画を作成し、PDCAを廻している。直営・協力会社が一体となって取り組むリスク低減活動の内容とリスクアセスメント事例を紹介する。

13:50

リスクアセスメント/マネジメントシステム分科会

13:50

5 挟まれ災害ゼロの壁への取り組み

NTN(株)磐田製作所
人事・総務部 安全・環境管理課長
楠 清尚

最も多い機械設備に於ける挟まれ・巻き込まれ災害を撲滅するため、もの(既存・新規の全設備)と作業(トラブル復帰時の非常作業)のリスク評価、人(全従業員)の危険体感教育を3年間で実施した。その結果'08年度の当該災害はゼロとなり、全災害件数も半減した。

14:10

6 リスク定量化手法を活用した安全対策の実施

関西電力(株)関西国際空港エネルギーセンター
運営課当直係長
谷口 金次

過去の災害状況等から点検内容・頻度や保修実態等に合わせ、現場実態を一番良く知っている作業者が評価を行う「リスク定量化手法」を活用した日常業務における安全再点検活動により、リスク低減を図った。現在、5480日無災害を継続中である。

(14:30~14:40休憩) 14:40

7 ビデオを活用したリスクアセスメントの進め方

(株)椿本チエイン 京田辺工場
ローラチェーン製造課組立2係研磨班長
高橋 通

センターレス研削盤の砥石取替え作業は、足場のない設備上部におけるカバーの取外し・取付けや不安定な足場でのクレーン吊り作業があり危険である。生産性向上のための段取り時間半減というテーマもあり、リスクアセスメントの実施により、安全作業と生産性向上を図った。

15:00

8 OSHMSによるリスク低減活動の展開

トヨタ自動車(株)
安全健康推進部
石川 裕亮

2006年からリスク低減活動を開始し、危険源を定量的に評価する指標を導入してきたが、リスク評価者により危険源の見方がバラつく、設備対策に進まないと高リスクが残り、職場の達成感がない等の様々な課題が発生した。これらの課題に対し継続的に行っている活動を紹介する。

(15:20~15:30休憩) 15:30

リスクアセスメント/労働安全衛生マネジメントシステムと日常的な安全衛生活動の一体的な運用による効果的な労働災害防止対策の推進

シンポジウム

講師 上野キャノンマテリアル(株) 総務課 専任主任
森永乳業(株)中京工場 製造部 アシスタントマネージャー
(株)YAKIN川崎 総務部 安全衛生チーム 課長

岡田 圭司
二村 久雄
角岡 正満

助言者 厚生労働省労働基準局 安全衛生部安全課担当官

司会 中央労働災害防止協会 マネジメントシステム審査センター 副所長 白崎 彰久

17:00終了

10月23日(金)のプログラム(9:40開場)

10:00

9 災害を教訓としたリスク低減活動の取り組み

YKK AP(株)安全・環境センター
安全衛生管理部
長谷川 孝博

リスク低減対策として、ルールに沿って許容可能レベルまで下げた事例を発表する。従来は、センサーやカバーの設置で対応していたが、作業における危険源の特定・洗い出しを実施し、参加者全員の合議で評価(数値化)し、リスクレベルを決定することを導入して改善を進めている。

10:20

リスクアセスメント/マネジメントシステム分科会

10:20

10 吹田工場における リスクアセスメント

西日本旅客鉄道(株)京都支社 吹田工場
車両科 車両管理係
井上 達哉

当工場ではリスクアセスメントを取り入れ重大労災の防止を図っている。本研究では、現場で出来るリスク低減の取り組みを行い、気がかり事象検討会で議論し、現場では対応できない事柄は支社へ報告を行なう等、職場全体で取り組むことを目標とした仕掛けとその成果を紹介する。

(10:40~10:50休憩) 10:50

11 航空用エンジン組立 職場における安全対策

川崎重工業(株)明石工場
ガスタービンビジネスセンター
生産総括部製造部第三工作課 班長
竹下 佳男

安全衛生教育で受講したリスクアセスメント手法を自職場に展開し、作業のリスクを大きく低減した事例を発表する。全24項目の危険有害要因を抽出し、2種類の専用治具を製作する対策に至った。班員全員で改善を進め、安全意識向上とともにコミュニケーション向上にもつながった。

11:10

12 トヨタグループの OSHMSの展開について

全豊田安全衛生研究会(豊田合成(株)本社)
豊田合成(株)本社
安全健康推進部安全衛生推進室 GL
蛭澤 孝

当研究会では、グループの共通の考え方に基づいたマネジメントシステムの構築、グループとしての共有化の取り組みが必要となってきたことから、グローバルOSHMSプロジェクトを設置してグループ各社の相互研鑽によりOSHMSの展開促進を図っている。

11:30

特別
報告

地域における労働安全衛生 マネジメントシステムの普及促進の鍵

(社)富山県労働基準協会事業部(OSHMS担当)

調査役

八川 進

経営層への働きかけ、ノウハウの提供、規模業種の異なる事業場ニーズの把握と反映を、行政と一緒に取り組んだことが、地域におけるOSHMS普及促進につながっている。

11:50

13 労働安全衛生マネジメントシステム 導入による無災害職場の実現

プリンス電機(株)
総務部総務課長
石黒 芳樹

お取引先から「社員の安全衛生管理を確実に行うことで、モラルが向上し、生産性向上や品質向上につながる」と聞いたことを契機に、労働安全衛生マネジメントシステムの導入に取り組み、仕組みに基づき、職場リスクの抽出と改善を図り、無災害が継続している経緯を発表する。

12:10

14 感電事故撲滅と リスクアセスメントの取り組み

西日本旅客鉄道(株)神戸支社
神戸電気区 係長
都田 忠邦

当社では、感電事故撲滅に向けた「停電が基本」の取り組みを実施しており、その取り組みの深度化を図っている。また、ヒヤリハットを基軸とした予兆管理活動とリスクアセスメントの融合、工事計画段階におけるリスクアセスメントの導入により危険に対する感度の醸成を図っている。

12:30終了

安全管理活動分科会(第1会場)

会場 埼玉会館 大ホール さいたま市浦和区高砂3-1-4

交通 JR線浦和駅西口から徒歩6分(4ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:40開場)

10:00

1 発車標作業時における 墜転落災害防止への取り組み

東海旅客鉄道(株)関西支社
電気技術主任
黒瀬 一之

ホームに設置されている「発車標」の修繕作業は、一部2m以下の脚立作業も含まれているが、電車線作業に比べ墜転落への意識が低い傾向にあったため、全ての作業を高所作業と位置づけ、作業効率を損なわない安全確保を検討し、安全帯着用等を定着させた取り組みを報告する。

10:20

2 フォークリフト事故災害 ゼロへの取り組み

日本通運(株)仙台支店
卸町物流センター事業所
中村 大介

フォークリフトによる類似事故の発生を防ぐために開始した安全活動において浮き彫りになった問題点について、フォークリフト指導員による教育や、慣れと感覚に依存しない視覚確認可能な操作の導入によって、月間のフォークリフト荷物事故ゼロを達成した。

10:40

3 「5Sコンペ」で 安全の環境と意識を向上

JFEスチール(株)西日本製鉄所(福山地区)
労働人事部福山安全衛生室
殿下 恭宏

5S活動(4S活動に躰のSを加えた活動)による安全の環境と意識向上の推進を目的に、従来の部・室・工場単位の個別活動から、地区全体の安全衛生重点活動と位置づけ、コンテスト形式で地区をあげて実施している「5Sコンペ」の活動について紹介する。

(11:00~11:10休憩) 11:10

4 電気検測車点検時における 労働災害事故防止

西日本旅客鉄道(株)福知山支社
電気課 課員
山口 友則

トロッコ線が加圧状態で作業を実施してきた電気検測車装置点検を停電作業で実施可能とした。その解決方法として、他系統の協力の下、ルール及び役割分担を明確にし、開業後22年間変更できなかった作業形態を変更し、安全で確実な作業を可能とした取り組みについて発表する。

11:30

5 出火事故に学ぶ 再発防止への取り組み

日産自動車(株)追浜工場
製造部成型課
伊澤 進

職場火災の発生により生産停止となり、お客様に多大な迷惑をお掛けした経験から、職場火災を二度と起こさない為に取り組んだ教育訓練、アースの見える化、作業手順の効率化、いろはカルタ等を始めとする日々の取り組みと、火災発生の重みを伝え継ぐ使命を紹介する。

11:50

6 ソニーグループの 労災リスク新手法の開発

ソニーファシリティマネジメント(株)
セーフティエンジニアリングセンター
安全・防災ソリューション部安全衛生課 統括課長
菊池 和之

労働安全衛生マネジメントシステム導入後における災害件数の減少鈍化を受け、その原因を探り、労災リスクアセスメントをウェブによるシステム化の開発と、評価ロジックに許容できないリスク、点検・監視が必要なリスクと閾値を設定した新手法の開発について発表する。

12:10

安全管理活動分科会(第1会場)

12:10

7 活力に満ちた職場の 安全風土づくりへの挑戦

東日本旅客鉄道(株) 秋田支社
秋田運輸区 主任車掌
伊藤 正英

数年前は、停滞の一途を辿っていたチャレンジセーフティ運動(CS運動)であったが、運輸区内の廊下に“見える化ストリート”を設け、その中にCSコーナーを作り、会議内容の周知、乗務員のマイ・ヒヤットの共有化を図っているCS事務局メンバーの悪戦苦闘の日々を紹介する。

(12:30~13:30昼休み) 13:30

8 クレ玉作業の レベルアップに向けて

日本通運(株) 福山支店
安全衛生室
松岡 伸治

玉掛作業における無線ページングの導入により、手合図で作業することを忘れてしまう等、メリハリがなくなった玉掛合図を、ビデオカメラを利用して自分のクセを知ること、それを他人が評価し、自らの行動を知る事によって改善を行い、個々のレベルアップを図った取り組みを紹介する。

13:50

9 変電作業の 安全レベルアップの取り組み

東日本旅客鉄道(株)
東京変電技術センター 電気技術主任
大場 政勝

神田変電所で発生した感電事故の再発防止として、安全と設備に関する情報は、パートナー会社も含めた関係者全員の共有が大切であると考え、バイブルとなる冊子「変電技術センター安全の取り組み」にまとめた。その取り組みについて事例を挙げて説明を行う。

(14:10~14:20休憩) 14:20

講演 有人宇宙システムを 安全に運用するための方策

(独)宇宙航空研究開発機構 安全・信頼性推進部長
武内 信雄

日本初の有人宇宙施設「きぼう」の運用が行われている。「きぼう」を安全に運用するための準備や実際の運用で何が行われているか実例を含め説明する。

(15:20~15:30休憩) 15:30

10 セーフティデータシートの 開発とその活動

長岡技術科学大学大学院
システム安全系 教授
杉本 旭

大学では、的確に安全管理を行うのが容易ではない。そこで化学物質管理で義務付けられているMSDS(Material Safety Data Sheet)を参考にコンプライアンスとリスクアセスメントを加えたセーフティデータシートを開発し、効率的な安全管理を図った。

15:50

11 安全衛生活動による リスク対策とその成果

九州工業大学
安全衛生推進室 室員(戸畑地区衛生管理者)
江口 正一

学内ホームページ、化学物質安全管理支援システム、ハザードリスクデータベースシステムを導入し、これらの情報をリンクさせて効率よく安全衛生巡視を行っている。また巡視終了後、巡視報告書も作成、送付し、安全な実験・研究環境づくりに効果を上げている取り組みを紹介する。

16:10

安全管理活動分科会(第1会場)

16:10

12 予兆管理活動 「HAT」の取り組み

西日本旅客鉄道(株)神戸支社
安全推進室 課員
松本 泰昌

当事業場では、ちょっとした注意不足、失念、失敗を一過性で終わらせることなく、仲間と自由に話し合い、共有しあって現場の安全に対する予兆管理の感性を高めることを目的に、平成16年度より2年間のカリキュラムで行なっている「HATリーダー」の育成について発表する。

16:30

13 水路内流量測定に伴う 安全対策について

東電不動産(株)
建物運営本部 電力建物管理部 測量グループ
吉沢 力三

作業環境が特殊である水力発電所水路内における流量測定作業は、流量測定装置を使用し、作業の安全確保に配慮した手法で行っている。実際に、作業を行っている現場で実施している作業者の水路内転落防止対策と工具類の水路内落下防止対策について報告する。

16:50終了

10月23日(金)のプログラム(9:40開場)

10:00

14 「安全常に」に向けた 重大作業計画書制度

チッソ(株)水俣本部
環境安全品質部 安全衛生担当 次席
農頭 廣和

「安全常に」の理念の下導入した重大作業計画書制度により、各人が計画書を作成、確認し、作業をすることで責任を自覚し、役割を果たす力を身につけた。特に、第一線の作業責任者や安全管理者の危険に対する感性の向上と安全意識の高揚を図り、事業所全体の安全レベル向上を実現した。

10:20

15 低頻度作業を中心とした 重点6災害防止活動

関東自動車工業(株)岩手工場
岩手工場管理部 工場管理室 一般
三鬼 賢常

低頻度作業における重大災害発生に対する反省から、重点6災害を切り口にして、低頻度作業のリスクアセスメントを各職場で確実に「やり切る」ために、各課の活動結果の「見える化」をする等の横展開を図り、「やり切る」仕組みづくりに取り組んでいたので紹介する。

10:40

16 安全診断の見える化による 安全風土の醸成

東海旅客鉄道(株)東海鉄道事業本部
車両係
山口 琢己

各職場単位で現場作業者が参加して行なう安全衛生診断を、5S診断と作業診断の2つに分けて実施することで、不安全状態を発見し、指摘事項を「見える化」し、問題意識の共有化と改善意識の向上を図るとともに、指摘事項のリスクアセスメントを実施し再発防止体制を図った。

(11:00~11:10休憩) 11:10

講演

奥義の継承と進化 ～麻婆豆腐は愛情～

四川飯店
オーナーシェフ
陳 建一

四川料理の伝統を伝え発展させることを使命とし、世界で自分にしかない味を作るには、一生懸命作ることと説く。最大の課題は、2人の息子と140人の弟子を育てること。平成20年度「現代の名工」。

12:10終了

安全管理活動分科会(第2会場)

会場 埼玉会館 小ホール さいたま市浦和区高砂3-1-4

交通 JR線浦和駅西口から徒歩6分(4ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:40開場)

10:00

1 「小集団活動」を 基軸とした安全活動

日産自動車(株)栃木工場
第三製造部第一車軸課
平野 順一

機械加工職場では油で床が滑るのが当たり前という風土があり、自らが十分に滑らないように注意するという注意喚起や清掃という措置に終始していた。永年当たり前と思っていたが、乾いた床面を目標に小集団活動し、この過程において、安全意識の向上を果たせたので報告する。

10:20

2 安全認定職場づくりの 取り組み

(株)クボタ 堺製造所
作業機技術第一部 担当課長
戸成 厚史

「安全人間づくり」・「設備の本質安全化」・「作業の本質安全化」を当社では、安全の3本柱としている。これに、リスク低減状況、バトリール結果等を加味して判定する社内表彰制度である「安全認定職場」制度が導入後5年を経過した。その成果について発表する。

10:40

3 CS運動における 改善事例について

東日本旅客鉄道(株)大宮支社
大宮新幹線電力技術センター 電気係
金子 悟郎

JR東日本グループの安全活動に、現場第一線の社員が安全について考え、行動する風土を作るチャレンジセーフティ運動(CS運動)がある。現場の工夫改善事例、CS運動活性化投資を活用した設備改善事例等、大宮新幹線電力技術センターのCS運動における改善事例を紹介する。

(11:00~11:10休憩) 11:10

4 危険の芽を摘む! リスク低減活動への道

苫東石油備蓄(株)苫小牧事業所
業務課 業務直長補佐
吉田 隼人

当社が従来から取り組むヒヤリハット活動にて、設備の不備や行動の誤りから不安全状態や不安全行動の発生可能性があるものを潜在ヒヤリとして課員全員で発掘し、リスク評価を行い、職場環境、作業環境改善に取り組み、無事故無災害記録継続の一助となっている活動を紹介する。

11:30

5 コンテナロック、 解除よし!!(OK札導入)

日本通運(株)横浜国際ターミナル支店
大黒C-3事業所 係員
島 一輝

コンテナのヤード搬入時における外来ドライバーによるシャーシのツイストロック未解除を起因とする事故が発生した。その防止対策として、OK札を導入し、ドライバーのロック解除が徹底され、荷役オペレーターの危険予知にも繋がり、月に約3件のヒヤリハットがなくなった。

11:50

6 JFE西日本倉敷地区の 安全衛生活動状況

JFEスチール西日本製鉄所(倉敷地区)
労働人事部倉敷安全衛生室 主任部員
有村 鶴和

鉄鋼業における安全衛生活動は、総合安全として直営作業のみならず関係協力会社も含めた安全衛生活動を行っている。その概要として、「設備・作業の本質安全化の取り組み」、「階層別人材育成による意識・知識・危険感受性向上の取り組み」と、その成果について報告する。

12:10

安全管理活動分科会(第2会場)

12:10

7 製造派遣労働者に対する 安全教育・安全管理

(社)日本自動車工業会
安全衛生部会 Bグループ研究会委員
三菱自動車工業株管理本部 人事・労政部 マネージャー
椿 邦明

自動車製造事業場では多様な雇用形態の労働者が混在し従事している。昨今、派遣労働者の災害が目立っており、会員企業に対し実態調査(雇用形態別災害発生状況、安全教育、配属配慮等)を行い、現状分析・現状把握を踏まえ、安全管理体制の強化について検討した。

(12:30~13:30昼休み) 13:30

8 「軸受」開封・運搬作業の 改善

東海旅客鉄道(株)新幹線鉄道事業本部
車両係
山本 浩之

軸受を車両に使用する際に、運搬・載せ替え時に発生する作業者への負担をどのように低減するか、また、梱包開封作業時の切創をなくするためにはどのようにしたらいいかという観点から、4メーカーと協議する等、作業環境の改善・作業の効率化に取り組んだ内容を発表する。

13:50

9 バフ研磨職場の 安全性向上

川崎重工業(株)明石工場
SC本部車体製造部塗装課 班長
新治 健

当社では、職場の安全衛生小集団活動を日常的な安全活動と同時に階層別教育に組み込んで行っている。職長任用後の教育の一環としてリスクアセスメント活動を自職場で展開し、モーターサイクル車体部品の研磨作業の安全確保と作業性の向上を図った事例を紹介する。

(14:10~14:20休憩) 14:20

10 触車事故防止の 取り組みについて

北海道旅客鉄道(株)苗穂運転所
検修科 車両技術係
斉藤 浩

鉄道独特の労働災害である触車事故。防止対策として、「指差称呼確認」を徹底しているが、ハード対策として行っている、車両のメンテナンスや清掃を行う建物内に車両が出入庫する際の「車両入出庫警報システムの開発」の取り組みについて紹介する。

14:40

11 職場一丸となって推進した! 災害防止活動!

新日本製鐵(株)棒線事業部 室蘭製鐵所
製品技術部エネルギー課
黒木 和也

「ガス災害は2度と起こさない」ことを肝に銘じ、再発防止を誓い、防止策として、装着型CO計の常時携帯、定置式CO計の増設と集中監視、ガス漏洩リスクの高い場所を危険区域に指定し立入り制限を実施した。また、被災者救助訓練も継続実施し救助活動スキルの向上を図っている。

15:00

12 予兆を生かす!!

西日本旅客鉄道(株)神戸支社
神戸保線区 施設管理係
山田 達也

パートナー会社社員からの意見も吸い上げ、問題解決そして予兆管理力の向上に向け日々取り組んでいる。平成20年度からは、平成16年度より取り組んでいる予兆管理活動に、リスクアセスメントを取り入れた取り組みを実施している。現在までの振り返りと成果について発表する。

(15:20~15:30休憩) 15:30

安全管理活動分科会(第2会場)

(15:20~15:30休憩) 15:30

錯覚

講演

文教大学
人間科学部教授
椎名 健

我々の目はどうして簡単にだまされるのか。「錯覚」には人の感覚と心の働きが大きく関係している。デモと一緒にしながら、そのメカニズムや人間の心の特性について解説する。

16:30終了

10月23日(金)のプログラム(9:40開場)

10:00

失敗は予測できる

講演

東京大学大学院
工学系研究科産業機械工学専攻教授
中尾 政之

ハードウェアの失敗は、共通の失敗シナリオに沿って繰り返されるので、失敗シナリオを学んでおけば事前に予測できる。しかし、ソフトウェアのシステムは大規模で複雑になったので、損失が拡大しないように予め要求機能同士を独立設計すべきである。

11:00

13 「SEネット」の作成について

日本通運(株)大井国際輸送支店 台場貨物センター
第3線倉庫グループ
町屋 淳

貨物の転倒、落下防止のためラップを使用していたが、中腰での状態を余儀なくされる作業姿勢から腰痛発症の危険が潜んでいる。腰痛防止等の観点から、ラップに変わる保定材を検討し、ネットを利用した新たな保定材の開発を行ったものである。

(11:20~11:30休憩) 11:30

14 身近な危険を排除し 目指せリスクゼロへ

東京急行電鉄(株)
鉄道事業本部 運輸営業部 菊名駅 助役
渡邊 規康

リスクアセスメントを始めるに当たり、職員全員にアンケートを実施した。業務において危険と思われる作業をあげてもらったところ、大きく3つのリスクが発見された。駅務室等の身近な環境の整理から始まったが、一つ一つを改善することで、リスクが低減し安全意識が高まった。

11:50

15 海上コンテナデバン時の 転落防止対策

日本通運(株)静岡支店中央ロジスティクスセンター事業所
所長
桃北 英昭

当職場で発生した転落事故の再発防止のため、チームミーティングで現状把握と分析を行った。その結果、使用する工具の変更と作業手順書の見直しの他に、作業ステージの改善を行った。リスクアセスメントの手法でリスク低減効果が確認できた事例として発表する。

(12:10~13:10昼休み) 13:10

OSHMSの更なる向上を目指して

事例報告

サカタインクス(株)
生産技術本部東京工場 工場長
前田 正昭

OSHMSの認証取得に至った取り組みと、TPM活動の一環である安全度・快適度・働きがいのアンケート結果をOSHMSにリンクさせている活動を紹介する。

13:30

安全管理活動分科会(第2会場)

13:30

16 安全帯の完全使用への取り組み

シーエヌ建設(株)
常勤監査役(前安全部長)
鈴木 朗

「安全帯は完全使用せよ、監督指導の本来業務を遂行せよ」を経営幹部が率先垂範指導し、着工後3日間特別安全パトロールで実施状況を確認。現場管理者が監督指導(その場で注意指導)をキチンと遂行した結果、高さ2m以内においても安全帯使用が定着し、墜落ゼロの成果を得た。

13:50

17 真に乗務員に伝わる 掲示点呼の確立について

東日本旅客鉄道(株)千葉支社
習志野運輸区
瀧口 稔

職場における掲示や点呼が、どの程度乗務員に伝わり事故防止に資するものか聞き取り調査を行った結果、「掲示物が多すぎて細かい内容まで見ない」、「発生原因まで伝えきれない」等の意見を受け、「事故防止に資する」掲示方法、「心に残る点呼」の執行方法を研究した。

14:10終了

安全衛生教育分科会

会場 さいたま市浦和コミュニティセンター 多目的ホール さいたま市浦和区東高砂町11-1 10階

交通 JR線浦和駅東口から徒歩1分(4ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:40開場)

10:00

1 新規採用者の安全と 技能教育への取り組み

日本通運(株)倉敷支店
東鉄事業所 技能長
森 龍己

平成20年1月より経験の浅い作業者の事故が続発した。事故の内容から、主に経験の浅い作業者の確認不足、経験不足、作業指揮者の指導不足、慣れ合い作業と相互注意の欠如が原因と考えられた為、指導方法をマニュアル化し、習得レベルのチェックにより技能向上に努めた。

10:20

2 大学生への安全衛生を 含めた技術者養成について

愛媛大学樟味事業場
農学部 准教授
伊藤 和貴

学生を含めた安全衛生マネジメントシステムの構築のために、安全衛生教育と技術倫理をカリキュラムに取り入れ、職業人として所属する組織が社会に対して果たすべき態度・行動・考え方を養成することを目的とした「技術者の初歩」の講義の取り組みについて報告する。

10:40

3 人材サービス業としての 安全衛生教育の取り組み

(株)トーコー
業務部安全衛生課
谷口 昌克

当社は、人材派遣及び各種アウトソーシング等総合人材サービス業を展開している。取引先企業の現場に就労する社員の安全衛生管理・災害防止等の取り組みのための「社内職長教育」及び衛生管理者育成の推進等の安全衛生教育カリキュラムの作成とその実績、今後の方針について報告する。

(11:00~11:10休憩) 11:10

安全衛生教育分科会

(11:00~11:10休憩) 11:10

4 安全第一の意識醸成 による安全文化の構築

関西電力(株)南港発電所
計画課
寺村 暢人

当社では、一人ひとりの安全意識が自然と行動に現われてくるような組織風土づくりに取り組んでいる。災害ゼロの達成には、安全第一の意識の醸成が鍵である。入構教育やミニ体感訓練の導入等、構内に入構する全ての人に対して危険(災害)を実感できる教育の工夫に取り組んでいる。

11:30

5 ハチ刺され災害防止のための 安全衛生教育の取り組み

北海道旅客鉄道(株)
追分工務所 施設技術係
奥山 毅

山間部のスズメバチによる災害予防教育は、ベテラン社員の引継ぎや教育が中心であったが、世代交代が進む現在、経験に基づく職場内教育に加え、蜂の特性等をまとめた教育用資料や応急処置の手順を示したDVDを作成し、基礎的な知識の習得と感受性の向上を図っている。

11:50

6 クレーン操作実技認定制 導入への挑戦

共和物産(株)深谷事業所
シート梱包職場総括主任
田邊 智則

過去3年間の重大ヒヤリ、休業災害の発生原因は、KY不足や正しいクレーン操作が身についていないことであった。そこで生じたのが、クレーン教育を指導者の都合だけで行っていないかという疑問である。現場の声を取り入れた実技認定制を試行錯誤しながら確立した活動を紹介する。

12:10

7 過去の災害に学ぶ、 安全確保アニメの導入

電力通信工事研究会
事務局員
川崎 信之

類似災害に関わるヒューマンエラー防止対策として、過去の災害・事故事例をアニメ化し、経験の少ない作業員にも分かりやすく効果的に事故防止を図ることができる、全54話の「安全確保アニメーション」を制作した。電力通信分野における包括的安全活動として紹介する。

(12:30~13:30昼休み) 13:30

講演

最強組織育成をめざして

早稲田大学
ラグビー蹴球部監督
中竹 竜二

早稲田大学の監督となった時、「勝つ責任」と「学生たちに任せた責任」という重荷を自らに課した。カリスマ性ではなく組織の目的に対してどうあるべきかを考えるのが監督だと語る。

(14:30~14:40休憩) 14:40

8 安全基本動作の 継承について

東日本旅客鉄道(株)千葉支社
千葉駅 輸送指導係
藤原 義典

事故防止と安全意識の向上を目的とした「基本動作コンテスト」は、信号所、ホームにおいて、実際の業務の基本動作をビデオ撮影し、社員相互で客観的に評価し合ったことで、より良い職場風土づくりにつながった。また、職場で刊行している情報誌の作成経緯を発表する。

15:00

安全衛生教育分科会

15:00

9 ボール盤等の安全教育の実施について

(株)本田技術研究所 二輪R&Dセンター
管理室 安全衛生課
澤田 等

当事業所では、多くの従業員がボール盤を使用して研究開発業務を行なっているが、ボール盤使用中の労働災害が2件発生した。再発防止対策としてボール盤での加工方法を含めた安全講習会を1600人の従業員に対して実施した。その教育目的と実施要領、成果を発表する。

15:20

10 事故再発防止、危険の早期発見回避対策

石川日通運輸(株)
本社
森野 一秀

交通事故発生の要因となっているのが、正しい安全確認が出来ていないにも関わらず「出来ているつもり」「見ているつもり」である。独自のツール「安全めがね君」により視野範囲の認知をさせ、乗務前点呼時にカードを利用した視覚トレーニングを行い事故発生を抑制した。

(15:40~15:50休憩) 15:50

11 ヒヤリハットは天使の贈り物

東電工業(株)
安全部安全グループ主任
遠藤 彰

日常業務で体験する危険因子を収集・分析して予防安全対策に活用するため、『ヒヤリハットは天使の贈り物』と命名し、ヒヤリハット体験の自発的報告制度を全社的に発足させた。この潜在リスクを自発的に報告する制度の設計経緯、運用状況並びに成果の活用状況等について報告する。

16:10

12 職長業務を支えるリスクアセスメント

荏原テクノサーブ(株)本社
総務部 環境安全課 課長
花田 善秀

ゼロ災達成への新手法として、建設業職長を対象にリスクアセスメントの教育を実施したところ、安全衛生の取り組みを意識付ける結果が生まれた。充実した教育を実施することで、職長業務(作業への指示・指導等)を支援することができることが分かった。

16:30

13 圧延作業における新人教育

古河スカイ(株)福井工場
製造部冷延課
前田 慎治

久々の新入社員配属を契機に、新人の作業を見ながら行動を確認し、新人視点を追加した作業標準書へ見直しを進め、人員配置協力の下、教育を計画的に行なった。これらの活動を通して、安全作業の確認と教育ルールの確立を目指し、安全作業のレベルアップを継続している。

16:50終了

10月23日(金)のプログラム(9:30開場)

9:50

14 6つの手法を浸透させるための階層別安全研修

(株)NTTネオメイト
現場力向上推進本部 安全品質推進部長
藤村 徹

働く人の安全確保とともに、お客様から安心・安全・信頼を得るために、労働災害再発防止策から得られたナレッジを集成し、体系化した6つの手法(リスクアセスメント、KY等)を、支店長・部長クラス、マネージャークラス、実務者と階層別に実施している研修について発表する。

10:10

安全衛生教育分科会

10:10

- 15 今、建設業界にとって大事な事、必要な事、それは安全衛生教育!
- (株)深谷組
総務人事
久保 友貴
- 当社は、3つのキーワード(スピード・チャレンジ・ネットワーク)を基本に人材の教育・発掘を行っている。常に安全第一を念頭に作業を行い、2週に1度の職長会、月に1度は全社員が社員寮に集まり安全集会を行う等、安全意識の高揚を図り、世代を越えた安全活動を続けている。

10:30

- 16 大宮地区事業場の「職長等安全衛生教育」
- 社団法人大宮地区労働基準協会
RST講師
大塩 良彰
- RSTトレーナー会埼玉支部・東京安全衛生教育センターと連携し、最新情報と指導方法の改善を重ねている職長等安全衛生教育について発表する。RST講座修了者のインターンの役割も果たす等、「大宮RST教育方式」とも呼べる実践的教育は、地区安全衛生推進の要である。

(10:50~11:00休憩) 11:00

- シンポジウム
- 人材育成におけるRST講座の意義
- 講師 電源開発(株)水力・送変電部 西日本支店 調査役(専任安全管理担当) 川野 政彦
JFEメカニカル(株)安全衛生部 担当役員付 理事 西坂 明比古
味の素(株)本社 環境・安全部 課長 遠藤 由和
中央労働災害防止協会 東京安全衛生教育センター 講師 多田 敏基
- 司会 中央労働災害防止協会 東京安全衛生教育センター

(12:30~13:30昼休み) 13:30

- 講演
- 人材育成と企業経営
- 総合科学技術経営研究科 東京理科大学 研究科長 教授 伊丹 敬之
- 「仕事をどのように進めていくか」、「何が人を育てるのか」、に焦点を当てて、「人の育て方と企業戦略」について解説する。

15:00 終了

機械・設備等の安全分科会

会場 さいたま共済会館 大ホール さいたま市浦和区岸町7-5-14
交通 JR線浦和駅西口から徒歩10分(4ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:40開場)

10:00

- 1 設備内作業の安全・安心化への取り組み
- JFEスチール(株)西日本製鉄所(福山地区)
労働人事部 福山安全衛生室
時庵 尚
- 可動体、回転体に人が接触して発生する「挟まれ、巻き込まれ」災害の防止対策として、作業者がいかなる場合にも接触しない設備対策を行うとともに、近接もしくは接触する場合には、確実な停止措置、誤操作防止措置(条件設定)を行う安全・安心化の推進活動について紹介する。

10:20

機械・設備等の安全分科会

10:20

2 新幹線車両検査における安全の確立

西日本旅客鉄道(株) 博多総合車両所
車両管理係
西田 弘美

博多総合車両所のスローガンである「今まではこれでよかったが、今後もこのままでよいか」という基本方針の下、リスクアセスメントの取り組みを通じて、新幹線車両の出場検査時における、車両間のカブラ部による感電事故を防ぐため、接続部分に装着する治具を考案・開発した。

10:40

3 クレーン作業における災害防止

(社)日本自動車工業会
安全衛生部会 Aグループ研究会委員
ヤマハ発動機(株) 人事部 安全健康推進グループ
広羽 康紀

発生すると重篤災害につながるクレーン作業について、設備や社員教育等、ハード(吊り上げ荷重別クレーンの種類、吊り上げ荷重別の安全装置)+ソフト(作業内容、安全管理基準、安全教育、運転資格基準等)両面から考察し、災害事例の分析を通して災害防止を検討した。

(11:00~11:10休憩) 11:10

4 段ボール打抜き作業の実状と課題

(有)テクノツウ
代表取締役・労働安全コンサルタント
磯野 信雄

機械の包括的な安全基準に関する指針が発令されて7年が経過している。しかし、生産現場の実態は、依然として不十分な状態が多数見受けられる。改善指導を行ってきた事例として、「段ボール打抜き作業」の作業現場の実情と今後の課題について解説する。

11:30

講演 ものづくり大学におけるテクノロジスト教育

ものづくり大学 学長
神本 武征

「ものづくり大学」では手作りの楽しさを原点に、ものづくりの技と知を併せ持つテクノロジストを独特の教育システムで養成しており、その教育現場について語る。

(12:30~13:30昼休み) 13:30

5 組立型クランク軸焼焔作業における安全確保

(株)神戸製鋼所 高砂製作所
鋳鍛鋼工場製造部鋳鍛加工室 班長
根井 誠

中途入社で、作業経験が3年未満のメンバーを中心にリスクアセスメント手法を用いたリスク評価を行った。今までと違った目線で危険箇所を抽出したことが、過去の経験に捉われることのない良い改善につながり、チェーンブロックに全く触れない安全な収納を実現させた。

13:50

6 計量メーター値確認作業の改善、安全確保

三菱電機ビルテクノサービス(株) 中部支社北陸
安全衛生指導員
笹島 和雄

ビル管理システム設備の保守内容の一つである計量メーターの確認作業は、メーターの設置場所が、床上約8mの高所、天井裏、奥深い、暗い等が多いため、危険が伴う作業である。今回、梁の上の歩行安全対策やカメラによるメーター値確認対策などを研究・開発したので、紹介する。

14:10

I 機械・設備等の安全分科会

14:10

7 電車屋根上作業の 安全確保について

東日本旅客鉄道(株)
郡山総合車両センター 企画課設備 車両技術主任
関根 寛

架線は手動断路器により通電される。感電の防止は断路器の使用手法や連絡の徹底等で実施してきたが、危険の芽はまだあると考え、深度化を図り、使用手法や連絡の徹底等の人為的対策から電気制御等による機械的対策で、フルブルーフの考え方による安全対策が出来た。

(14:30~14:40休憩) 14:40

8 使用後の保護帽から 観察した経年劣化

(株)谷沢製作所 茨城工場
品質保証課 課長
渡辺 光史

使用後の保護帽から材質毎(ポリカーボネート、ABS、ポリエチレン、FRP)にサンプリングを行い、その保護性能を労働省規格に基づく耐衝撃吸収性試験(低音処理-10℃)で確認し、屋外曝露試験結果と比較して因果関係について述べる。

15:00

9 機械設備導入時の リスク評価制度について

イーグル工業(株)
総務部CSR課
西村 真樹

弊社では、社内における安全衛生リスク抽出評価基準を定め、事後対策(改善)だけでなく事前対策を取り入れた安全対策を行っている。設備機械の導入の計画から稼働までを独自の手法でリスクの抽出評価を行っており、その手法と運用時の問題点、今後の取り組みについて述べる。

(15:20~15:30休憩) 15:30

10 ベルトコンベア設備の 安全対策

新日本製鐵(株)名古屋製鐵所
製鉄工場製鉄原料課原料係
出村 智也

職場全員で重篤災害が多いベルトコンベア災害のあらゆる危険性を追求し、その安全対策を検討した。その結果、従来のハード・ソフト対策を、現場の視点で発展させメーカーと共同した改善や、3Kの代表とも言える我々の職場のクリーン化を実現させたものである。

15:50

11 フォークリフトでの バンニング作業の改善について

日本通運(株)周南支店
日本ポリウレタン事業所
田丸 祥太

昨年10月に、輸出向けドラム缶をコンテナに積み込むバンニング作業がスタートした。騒音職場・ドラム缶変形による非正常作業の増加から、バンニング作業の改善対策に取り組み、新型ドラムクリッパー『キャッチくん』の完成に至るまでの試行錯誤の活動について発表する。

16:10

12 R2堅ロール軸固定リング 交換作業の改善

新日本製鐵(株)建材事業部堺製鐵所
形鋼部大形工場圧延課ロール整備職場 班長
林 健司

圧延用堅ロールの軸固定リングの脱着作業における災害が発生したことを受け、治具の考案と作業手順の改善・再教育を行い再発防止策は一旦完了した。その後、吊りワイヤーの掛け替えを必要としない吊具を完成させ、安全かつ短時間で出来る作業となった過程を紹介する。

16:30

平成21年度安全・衛生・快適考案表彰金賞事例発表

16:50終了

中小企業分科会

会場 さいたま市文化センター 小ホール さいたま市南区根岸1-7-1

交通 JR線南浦和駅西口から徒歩7分(5ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:40開場)

10:00

現下の経済情勢における中小企業の取り組むべきこと ー今こそ 安全衛生活動の再認識ー

講師 (株)IK安全サポート 代表取締役社長

ノースウエスト航空会社 日本地区 人事・労務本部人事担当主任

(株)ミヤケ 滋賀工場 総務課長

助言者 中央労働災害防止協会 教育部中小企業安全衛生推進センター所長

司会 中央労働災害防止協会 教育部中小企業安全衛生推進センター 業務課 業務課長補佐

小出 勲夫

田岡 和巳

高橋 忠臣

小林 剛

林 かおり

11:30

1 安全体感道場を通じた 自主的安全衛生活動の取り組み

(株)真岡製作所
業務センター 業務チームリーダー
横山 勝義

安全体感道場による新入社員、派遣社員、中国人研修生等への教育の実施、安全衛生手帳の中国語版、ポルトガル語版の作成等、自主的安全衛生活動の推進について報告する。安全・安心は社員一人ひとりが強い自覚と責任を持つことにより実現するものである。

11:50

2 現状の組織に於ける 安全衛生管理体制の構築

(株)柳沢精機製作所
管理部総務課
菊地 哲也

安全衛生活動の推進にあたり、専門部門を設けず、製造部門の課長クラスで安全管理能力が備わった者を安全指導員に任命し、指導員を主軸にした安全衛生管理体制の確立と設備の本質安全化を図るとともに、衛生管理者をきめ細かく配置し、現状の組織で実効ある取り組みを進めている。

12:10

3 「ヒヤリ・ハット」撲滅と KY活動

(株)セキュリティ
教育部長
小野田 尚

「安全と安心」を提供する警備業として、KY活動を重視し、より高い安全を提供する為に、警備員の“意識を変える研修”を実施している。慣れと過信、危機意識の個人差をなくすことを目的に、全員参加でヒヤリ・ハットの撲滅とKY活動を展開している活動を発表する。

(12:30~13:30昼休み) 13:30

4 医療安全と リスクアセスメント

金山歯科医院
院長
金山 敏治

患者に対する医療事故防止の安全対策は進んでいるが、医療スタッフに対する安全対策は遅れがちである。医療機器等の使用による健康被害の報告もあり、歯科医療スタッフの安全の向上を目的として「岡崎地域安全オニ退治運動」に参加し実施したリスクアセスメント事例を報告する。

13:50

I 中小企業分科会

13:50

5 埼玉県における 騒音職場の現状と対策

(独)労働者健康福祉機構 埼玉産業保健推進センター
産業保健相談員
武石 容子

騒音性難聴には有効な治療がなく、労働衛生管理による予防が大切である。産業保健推進センターの調査研究では、事業場規模が小さい騒音職場ほど衛生管理が立ち後れている。地域産業保健センターのホームページ上で、事業場の衛生管理の進捗に応じた、情報提供を行った。

14:10

まいど1号 中小企業の技術力の結集

講演

(株)アオキ
代表取締役
青木 豊彦

独自技術を持つ地元の中小企業と、JAXA(宇宙航空研究開発機構)の技術者が結集し、人工衛星「まいど1号」を開発した。経営者は夢と元気が資本であり、新しいものに挑戦するための風土づくりの要である。東大阪から宇宙への夢を語る。

(15:40~15:50休憩) 15:50

6 造船の職場 「ゼロ災から危険ゼロ」に向けて

四国ドック安全協会の
会長
伊槻 尚嘉

造船所の下請業者で構成する平成18年度登録団体「四国ドック安全協会」が、「ゼロ災害から危険ゼロ」をテーマに「たんばぼ計画」の2年間で取り組み、計画的な技能講習の受講とKYT研修の実施を中心として安全衛生レベルを向上させてきた活動について報告する。

16:10

7 リスクアセスメント導入の 指導事例について

榎本労働安全コンサルタント事務所
所長
榎本 輝雄

金属製品製造業(労働者数120名)における20ヶ月に渡る指導として、安全衛生委員会の活性化、安全衛生意識の向上を経て、リスクアセスメントを取り入れた作業手順書の作成に至り、JISHA方式のOSHMSで会社が元気になるように、活動している内容を報告する。

16:30

8 労働災害防止のために やれることから!!

(株)オールマイティセキュリティサービス
警備一部 部長
高橋 勇司

一企業の小さな努力が大きくなるとなり、警備業の労働災害事故発生率の減少に役立てばと考え、「出来る事を地道」に取り組んできた。それが、事故のない明るい会社として発展し、個人の幸せを得る近道となることを信じて行ってきた3年間の活動を紹介する。

16:50

9 雑踏警備における 情報収集による安全な警備活動

(株)ギルド
代表取締役
長田 健太郎

雑踏警備時の警備員の労災事故の多くは、単独対応時によるものが多い。群集の長期滞留により、規制警備員の対応範囲を超える前に対策を取る必要性を踏まえ、雑踏警備において事件事故等を予兆段階で発見することのできる警備員の育成制度の創設と実施結果を報告する。

17:10終了

化学物質管理分科会

会場 さいたま市文化センター 小ホール さいたま市南区根岸1-7-1

交通 JR線南浦和駅西口から徒歩7分(5ページ参照)

10月23日(金)のプログラム(9:40開場)

10:00

1 研究開発部門の 化学物質の健康障害管理

日東電工(株) 茨木事業所
環境安全グループ
数瀬 明美

2001年の薬品の入・出・棚卸時のチェックをはじめとする「薬品管理システム」の導入を転機に、研究開発業務における業務改善として、健康障害予防、薬品の適正管理等の取り組みと、派遣・パート社員を含めた力量教育とリスク認知を高める教育の実施について報告する。

10:20

2 医学部・附属病院の ホルムアルデヒド対策

愛媛大学大学院
医学系研究科 講師
浜井 盟子

「特定化学物質障害防止規則」等の法改正により、ホルムアルデヒドが第2類物質に指定され、管理濃度が0.1ppmに設定された。愛媛大学医学部及び附属病院で実施した作業環境管理、作業管理、健康管理、安全衛生教育及び安全衛生管理体制に対する取り組みを具体的に紹介する。

(10:40~10:50休憩) 10:50

講演

化学物質管理の現状と 今後の方向(仮題)

厚生労働省労働基準局安全衛生部
化学物質対策課 担当官

ハザードアセスメントから、リスクアセスメントが重要視されるようになってきた動向を踏まえ、最近の化学物質管理の施策や現状と今後の方向について解説する。

11:35

特別報告

化学物質リスクアセスメントへの取り組み

旭化成(株) 環境安全部
副部長
鶴田 厳一

旭化成グループではJISHA方式リスクアセスメント手法を参考に運用しやすい様式に電子化した。今回は、その詳細と運用例を紹介する。

(12:05~13:05昼休み) 13:05

特別報告

ナノマテリアルに関する 安全対策の取り組み

中央労働災害防止協会 日本バイオアッセイ研究センター
所長
福島 昭治

ナノマテリアルの有効性への期待が益々高まる一方、それが人の健康に影響を及ぼす可能性が指摘されている。そこで健康影響に対する研究の取り組みを報告する。

(13:50~14:00休憩) 14:00

化学物質管理分科会

(13:50~14:00休憩) 14:00

講演

わが国におけるこれまでのGHS対応と今後のあり方

日本ケミカルデータベース(株)
技術顧問
佐野 弘

2008年を契機として海外でもGHS導入が進んだ。日本と海外のGHS対応の状況を比較し、我が国におけるこれまでのGHS対応の問題点と、これからのGHS活用のあり方を考える。

15:20終了

ゼロ災運動分科会

会場 リリア(川口総合文化センター) 音楽ホール 川口市川口3-1-1

交通 JR線川口駅西口から徒歩1分(5ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:10開場)

9:30

① リスクと回避行動の共有でめざせゼロ災害!

(株)YAKIN川崎
製造部薄板工場 冷延第二係
佐藤 真登

私達の職場で発生する災害は、作業前の危険予知不足という共通の弱点があることが分かった。若年者からベテランまで、高い安全意識を持った行動が取れるように、作業に潜むリスクと回避行動を「作業安全シートの作成」により標準化し、ゼロ災害を継続する取り組みである。

9:50

② 現場と店社を結び双方向TBM-KY

NECネットエスアイ(株)
ネットワーク事業本部事業企画室品質管理部
藤岡 芳晴

主に、工期が数週間程度で複数の地点で同時進行する屋外工事において、携帯電話等のモバイル網とインターネット網を利用したICT技術を活用して、現場と店社を画像と音声で結び、双方向コミュニケーションで実施するWebTBM-KYにより現場の安全確保を行っている。

10:10

③ KYTトレーナー制度導入によるゼロ災活動

ボラスグループ ボラス(株)
安全環境部 部長代理
新居 健二

グループ各社のゼロ災運動をより推進するため、平成10年に自主的安全衛生活動組織として、「ボラスKYTトレーナー会」を設立し、全員参加で取り組む活動事例と、その活動を地域に拡大し、小学校へのKYT実習の実施等、地域密着農耕型経営を掲げた当社の安全活動を報告する。

(10:30~10:40休憩) 10:40

④ 朝のミーティング&問いかけKY活動でゼロ災運動

中興電機(株)
総務部 社長室長
原田 好雄

平成11年より全従業員を対象にKY教育を実施している。全員参加で、職場展開を図り推進している「朝のミーティング」と「問いかけKY活動」により双方向のコミュニケーションが活発化し、生き生きとした職場風土づくりに取り組んでいる事例を紹介する。

11:00

ゼロ災運動分科会

11:00

運動報告

ゼロ災運動の現状と今後の運動展開

中央労働災害防止協会 ゼロ災推進部長
田畑 和実

ゼロ災害全員参加運動第8次推進計画を踏まえ、今、企業に求められている「現場力の強化」と今後のゼロ災害全員参加運動の中長期的な展開方法を紹介する。

11:30

特別報告

KY活動が医療現場に与える効果(影響)

昭和大学横浜市北部病院
医療安全管理担当者 看護師長
武藤 朋子

中災防開催「医療KYセミナー」参加後、平成18年度からKY活動を導入し現在に至るまでの経過と、現在の課題へ取り組み得られた効果について報告します。

(12:00~13:30昼休み) 13:30

5

ヒヤリ・ハットは現場の声 実践活動でマンネリ打破

(株)クロスライン
取締役業務部長
鈴木 秀一郎

ヒヤリ・ハットの提案は、「職場に対する問題提起」であり、その問題提起を放置せずに色々な活用をした取り組みがKYT活動の原点である。重要なきっかけを産むヒヤリ・ハットを提案させる活動が安全対策の先取りの第一歩であると考えている当社の実践活動を報告する。

13:50

6

ゼロ災運動推進宣言 事業場登録後の取り組み

東亜テックス(株)
HSSE部 HSSE課長
石井 好

当社は、ゼロ災運動推進宣言事業場登録を契機に、その取り組みを見つめ直すとともに、トップが先頭に立ち、旗振り役として、強力にゼロ災運動を推進し、日々活動の活性化を図っている。特に、写真を活用した安全教育資料の活用事例を紹介する。

(14:10~14:20休憩) 14:20

7

ゼロ災運動で効果を上げた リスクマネジメント ~第一線の一人ひとりが明るく元気に~

(株)クボタ宇都宮工場
勤労課 安全衛生担当
板橋 陸

当工場の安全衛生活動の基本的取り組み姿勢は、「ケガの起こらぬ環境づくり」、「ケガを起こさぬ人づくり」である。ケガを起こさぬ環境づくりはリスクアセスメント、ケガを起こさぬ人づくりはゼロ災運動である。両者を一体的に取り組み、明るく・元気の職場風土づくりを発表する。

14:40

8

KYTチーフトレーナー制度で 協力会社支援

大鉄工業(株)
安全推進部 主任
寺前 勇

協力会社のゼロ災運動推進支援を目的として、KYTチーフトレーナー制度を設けた。KYTチーフトレーナーは、ゼロ災運動のプレゼンターとして、各協力会社オーナーと一体となり、ゼロ災運動キックオフから会社別の年間計画を作成し、それに基づき運動を支援し展開を図っている。

15:00

特別報告

報連相(報告・連絡・相談)から問題解決型へ

中央労働災害防止協会 ゼロ災推進部

現場力の低下が弱まりつつある現在、「報連相」を主体とした社内コミュニケーションから自己発想や意見を主張するという問題解決型・提案型への変革が求められている。この課題に応えるゼロ災運動のミーティング法を紹介する。

(15:20~15:25休憩) 15:25

ゼロ災運動分科会

(15:20～15:25休憩) 15:25

表彰

ゼロ災運動 表彰式

(15:45～15:55休憩) 15:55

講演

スポーツから学ぶ災害防止の人づくり

東海大学 名誉教授、宇佐美マラソン・スポーツ研究室主宰
NPO日本スポーツボランティア・アソシエーション理事長
宇佐美 彰朗

ヒトの注意力、集中力は鍛錬可能。それはヒトが動物で、学習能力を持ち合わせているからである。精神力と身体能力の特徴も生かして労働災害防止のための人づくりに活かす方法を探る。

16:55終了

交通安全分科会

会場 リリア(川口総合文化センター) 音楽ホール 川口市川口3-1-1

交通 JR線川口駅西口から徒歩1分(5ページ参照)

10月23日(金)のプログラム(9:10開場)

9:30

事例報告

運行管理の工夫で安全運転

岡野運送(株)
代表取締役会長
岡野 元昭

運転者ごとに月の運転時間を決め、それ以上は絶対に運転させない。運転時間管理の工夫が運転者の計画的な運行を生み、安全運転につながった活動を経営者の立場で紹介する。

10:00

講演

世界で戦う男の腕にかかるもの ～パリ・ダカールラリー～

ラリードライバー
増岡 浩

世界一過酷なパリ・ダカールラリーで2年連続総合優勝を果たした。小さなミスが、多くの人の夢を壊してしまうこともある。地図を読み路面を読み仲間を信じ、より早く、しかも安全にゴールにたどり着く世界を語る。

(11:00～11:10休憩) 11:10

1

映像記録型 ドライブレコーダーの活用

パナソニックテクニカルサービス(株)本社
総務グループ・総務チーム チームリーダー
松本 謙太郎

全車両1800台に映像記録型ドライブレコーダーを搭載。また、事故やヒヤリ・ハットの分析の際には、業務量、労働時間、健康状態、心理状態などを含めて原因を究明し、e-KYT(eラーニング形式の危険予知トレーニング)教材を作成。イントラを用いた安全教育を実施している。

11:30

交通安全分科会

11:30

2 映像を活用した交通安全教育の紹介

東京電力(株)東京支店 大塚支社
安全品質担当
小林 広明

弊社事業所では、ヒヤリハット時のドライブレコーダの映像を活用し、交通安全教育コンテンツを作成した。ドライブレコーダの映像では分かりにくかった道路状況や危険ポイントに気付くことができるように、映像に工夫を施したことにより、臨場感の高い交通安全教育が可能となった。

11:50

3 弊社の総合的交通事故防止活動について

コニカミノルタビジネスエクスパート(株)
社会環境統括部 安全衛生部
安全防災推進グループ 東海安全防災チームリーダー
吉永 成人

通勤をはじめ従業員の自動車利用の頻度の高い弊社では、2006年度に交通事故が多発したことから原因を分析し、既存の事故防止活動に加え、交通危険予知マップの作成と社有車にドライブレコーダを導入する等の新施策を展開した。総合的交通事故防止活動とその成果を発表する。

12:10終了

労働衛生管理活動分科会

会場 さいたま市民会館うらわ ホール さいたま市浦和区仲町2-10-22

交通 JR線浦和駅西口から徒歩7分(4ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:40開場)

10:00

1 ナノマテリアル対策用呼吸用保護具の開発について

(株)重松製作所
マーケティング部 係長
渡辺 学

市場で販売している当社製防じんマスクが、まだ有害性が十分に解明されていないナノマテリアルに対して、予防的観点から、ナノマテリアルの粒径ごとに、また防じんマスクの国家検定区分ごとにどのような能力(捕集効率)があるか実験した経過を報告する。

10:20

2 蓄積された健康診断データの活用(第2報)

(株)東芝 横浜事業所
人事部 人事・業務サポートセンター 産業医
林 俊夫

当社産業保健職とデータ解析チームが、蓄積された健康診断データを解析し、より効果的に健康保持増進活動に活用することを目的として開発し、2008年度下期から健康診断事後の面談時において活用している「健康診断事後措置面談の支援ソフト」について報告する。

10:40

3 作業環境測定における立体的評価について

東日本旅客鉄道(株)JR東日本健康推進センター
衛生試験室 主任医療技師
藤井 一男

電車を取り扱う当社特有の作業場においては、一概に作業環境測定基準が該当する作業場ばかりではないことから、車両周辺を一つの単位作業場として捉える立体的測定法を用いた評価を行い、有用な所見が得られたのでここに報告するものである。

(11:00~11:10休憩) 11:10

I 労働衛生管理活動分科会

(11:00～11:10休憩) 11:10

特別報告

職場におけるリスクアセスメントに関する実態調査

産業医科大学産業保健学部
安全衛生マネジメント学講座
近藤 充輔

リスクアセスメント指針の対応状況と安全衛生活動の実態を明らかにするため、リスクアセスメントを実施する目的や効果、実施体制等についてアンケート調査を実施し、業種別、災害発生率の減少の有無別で比較・検討を行なった。

(12:10～13:10昼休み) 13:10

4 仲間の命は僕らが救う!

東芝キャリア(株)富士事業場
総務部安全保健担当
秋山 ひろみ

社内の日赤救急要員の有資格者と健康管理スタッフによる、現場作業者450名へのAEDを用いた救急蘇生法教育の実施内容と、産業医・看護師・救急要員による救護班を構成し、東海地震を想定した災害避難訓練時に実施したトリアージ訓練を報告する。

13:30

5 職場における安全衛生小集団活動について

東京急行電鉄(株)
運輸営業部 横浜駅 駅務係
石井 秀幸

当職場は、安全衛生モデル職場に選定された。交代勤務職場のため、全職員に安全衛生意識の向上を浸透させるために小集団活動により活動の深度化を図った。ケガ人や急病人対応時の感染症予防対策として、リスクアセスメント手法を取り入れた衛生教育等の活動内容を紹介する。

13:50

6 ナノマテリアル曝露防護のための作業状況に応じた労働衛生保護具の選定について

(独)労働者健康福祉機構
埼玉産業保健推進センター
産業保健相談員 田中 茂

ナノマテリアルは有害性、曝露実態を把握せず使用されている。事業場の衛生管理者等が、多くの化学物質を取り扱う作業者の呼吸用保護具の選定を進める際に留意すべき、曝露防護するための労働衛生保護具の選定、使用上の注意点等について提案する。

(14:10～14:20休憩) 14:20

記念講演

労働衛生週間60回記念講演 労働衛生の展望

前(独)労働者健康福祉機構
埼玉産業保健推進センター 所長
櫻井 治彦

昭和25年から実施された労働衛生週間を記念して、新しい化学物質の管理やメンタルヘルス、過重労働など、リスクマネジメントの視点から労働衛生のこれからを考える。

(15:50～16:00休憩) 16:00

特別報告

活動報告～衛生管理者の悩み～

東京衛生管理者協議会 会長
(新日本製鐵(株)人事・労政部 部長)
安福 慎一

東京衛生管理者協議会の活動内容を報告する。併せて、会員の衛生管理者が抱えている悩みや当協議会に求めている支援についても紹介する。

17:00終了

健康づくり分科会

会場 さいたま市文化センター 大ホール さいたま市南区根岸1-7-1

交通 JR線南浦和駅西口から徒歩7分(5ページ参照)

10月22日(木)のプログラム(9:40開場)

10:00

① 小集団による 健康改善活動について

関西電力(株)大阪南電力所
所長室
白井 洋司

所見を有する者を対象にグループを編成し、産業医スタッフの動機支援を踏まえ、改善目標の立案、実践、発表を通じ所見の減少に向け、グループ単位による活動を行い、一体感を醸成することでモチベーションの維持を図り、自らの健康改善に自ら取り組むきっかけとなった活動である。

10:20

② 健康づくり活動 グッドシェイプ作戦の取り組み

JTBグループJスクエア中央健康増進室
(財)日本健康開発財団
中央健康増進室 主任保健師
飯村 裕子

2005年度より生活習慣改善のポピュレーションアプローチとして、ウォーキングをはじめとする参加型のキャンペーン「グッドシェイプ作戦」を実施している。広報活動に力を入れた結果、従前に比べ2倍強の参加があり、動機付けとして有効であった取り組みを報告する。

10:40

③ 「健康価値創造部会」の 取り組みについて

近畿地区THP推進交流会
健康価値創造部会
上田 千穂

健康づくり活動が企業に定着しにくい背景の一つに、企業と従業員のニーズのギャップが考えられる。そのギャップを埋めるためのツールであるアンケートを用いた、定着率や推進力の高い企画設計・プロセスについて、モデル事業場での展開を含め研究した結果を報告する。

(11:00~11:10休憩) 11:10

④ 職場の禁煙支援の 成果と今後の課題

JFEスチール(株)西日本製鉄所(倉敷地区)
労働人事部倉敷安全衛生室(ヘルスサポートセンター)
伴 真衣

喫煙対策として禁煙セミナーを5年間にわたり実施してきた。その成果と、禁煙セミナー参加者の成功率等の追跡調査の結果から、若年者の禁煙成功率が低い、失敗しても再禁煙の気持ちは年代に関係なく強い等の明らかとなった事項や、今後の支援課題について報告する。

11:30

⑤ 健康づくりリーダーと 保健スタッフとの連携

住友金属工業(株)鹿島製鉄所
安全健康室 保健師
日下 恵里

当事業所では、健康増進活動を円滑に進めるために各職場に「健康づくりリーダー」を任命している。健康づくりリーダーの役割と保健スタッフとの連携について、保健スタッフのマンパワーだけでは困難なことも多い大規模事業所の健康増進活動を、具体的な活動内容とともに紹介する。

11:50

健康づくり分科会

11:50

6 特定保健指導開始後 1年を経過して

トヨタ自動車(株)
安全健康推進部 主任
塚本 潤子

平成20年度より、定期健康診断に特定保健指導を組み込み、各工場・事業所のスタッフと連携して指導を実施している。メタボリックシンドロームという更なる視点での健診事後措置の継続支援における保健指導の成果と課題、弊社の特性を考察した今後の保健指導活動を発表する。

12:10

7 女性社員の健康支援 向上を目指した取り組み

東日本旅客鉄道(株) JR東日本健康推進センター
保健看護室 看護師長
遠藤 明子

鉄道会社特有の職場環境を踏まえつつ、母性を尊重し、その能力を十分に職場で発揮できるように、女性社員と管理者に実施したアンケート調査の結果を活用した健康教育の実施と女性支援相談窓口の開設準備を行い、女性社員の健康支援体制のあり方を検討した。

(12:30~13:30昼休み) 13:30

8 継続的な健康啓蒙活動 推進のあゆみ

鶴見曹達(株)
環境保安部
薄 ひとみ

安全活動と比べ皆無に等しかった衛生活動だが、従業員平均年齢の上昇、定期健康診断有所見率の上昇、メンタル不全者への対応等、社内での具体的な対策が必要となった。従業員の健康づくりへの意識向上を目指すための全社的及び職場単位での健康啓蒙推進活動への取り組みを発表する。

13:50

9 ウェルネススクールの 効果および課題の検討

ソニー健康保険組合
保健事業健康増進グループ
宮川 美帆

健保の保健事業の目的は医療費抑制である。そのために抗肥満活動は有用であり、当健保では、高齢者医療確保法施行以前からメタボリックシンドロームおよびその予備群を対象に集団健康教育を実施してきた。今回はその活動成果を報告すると共に、集団教育における課題を提示したい。

14:10

10 メタボ改善の効果的な 保健指導について

東京労災病院
勤労者予防医療センター 保健師(労働衛生コンサルタント)
齊藤 照代

「結果につながる効果的な保健指導」のあり方が、保健指導者に求められる重要なテーマとなっている。「メタボ改善の効果的な保健指導」の確立を目的に、動機づけ支援と積極的支援の効果の差異を比較し、指導効果の阻害要因を明らかにすることで、効率的指導法の体系化を図るために実施したプログラム結果を報告する。

(14:30~14:40休憩) 14:40

11 従業員の意識を変える 健康づくり活動

(株) 栃木ニコン
経営管理部 環境管理課 安全衛生係
今泉 貴史

「平成19年度全国THP推進協議会表彰」の優良賞を受賞し、現在までに予防と改善の両方に力点を置いて取り組んできた活動である「健康診断結果に基づく健康づくり実践教室」「ヘルスアップセミナー」「心とからだの健康づくり活動」等について紹介する。

15:00

健康づくり分科会

15:00

12 女性乗務員の 体調管理と事故防止

東海旅客鉄道(株)東海鉄道事業本部
車掌
廣瀬 恵

女性乗務員の体調管理は、安全安定輸送の確保において重要な課題となってきた。「女性乗務員が月経と積極的に付き合う方法の考察」に取り組み、教育教材を作成し、女性乗務員対象の学習会の開催、管理者会議における意見交換等を行い、他職場への水平展開を図った。

15:20

13 メタボリックシンドローム 支援の事例紹介

(株)グッドライフデザイン
営業統轄部 保健師
土屋 京子

平成19年度から開始した弊社保健指導チームによるメタボリックシンドローム改善プログラムの取り組みの事例紹介である。効果的な保健指導を行なうためには、対象者の個別性を尊重し、セルフケア能力の向上を図り、健診データの活用方法を改善することが重要である。

(15:40～15:50休憩) 15:50

講演

わかつちゃいるけど、痩せられない ～行動経済学から見た健康増進～

京都大学経済研究所
博士(経済学)
古川 雅一

人が無意識のうちにハマっている「痩せられない」行動パターンを、心理学と経済学を融合した行動経済学のアプローチで解き明かし、更に社員の健康管理と企業コストを考える。

16:50終了

メンタルヘルス分科会

会場 さいたま市文化センター 大ホール さいたま市南区根岸1-7-1

交通 JR線南浦和駅西口から徒歩7分(5ページ参照)

10月23日(金)のプログラム(9:40開場)

10:00

1 コミュニケーション 強化によるストレス軽減

小田急電鉄(株)大野電車区
助役
吉田 雄一

情報連絡手段が便利になった反面、経験の伝承や相談場面が少なくなってきた。コミュニケーション強化によるストレス軽減を課題に、「もっとクロスしよう」をスローガンに、職場環境の改善、コミュニケーションツールの提供により、所属員のストレス軽減と職場の活性化を図った。

10:20

2 分散する事業場をもつ 企業の看護職の役割

東芝物流(株)
総務部総務安全担当グループ 主任
本山 有美子

常駐産業医が不在の当社では、本社保健職が40箇所以上の事業場を巡回しメンタルヘルス教育を実施する等、保健職が中心となり調整対策を行っている。産業医が常駐しない場合のメンタルヘルス体制の構築、対策推進事例として、取り組み内容を報告する。

10:40

メンタルヘルス分科会

10:40

3 リコーにおけるメンタルヘルスの取り組み

(株)リコー本社事業所
人事部ヒューマンリレーション推進部 健康・安全衛生グループ
田端 和美

従来散発的に実施してきたメンタルヘルスの取り組みについて見直しを行い、2006年度より全社的な施策として展開中である。啓蒙を目的とした教育研修の実施、中災防ヘルスアドバイスサービスの全社員実施とその活用を主軸に、メンタルヘルス不調者の早期発見と未然防止を図る。

(11:00～11:10休憩) 11:10

4 メンタルヘルス対策マニュアルの作成とその実践

キッコーマン(株)
人事部 人事教育グループ長
田尻 佳彦

当社では、中災防メンタルヘルス支援事業の対策指針に基づき、メンタルヘルス対策マニュアルを2007年5月に作成し、予防から職場復帰の対策に取り組み、活動してきた。今後も継続的かつ計画的にメンタルヘルスを推進し、職場における社員の「心の健康の保持増進」を図っていく。

11:30

5 企業と医師と家族の連携によるメンタルヘルス

アイフォーコム(株)
カウンセリング室・産業カウンセラー 精神保健福祉士
森田 真由佳

限られたスタッフでのIT中小企業におけるメンタルヘルス対策の導入から職場復帰までのトータルケアを目指した取り組みを紹介する。上司や専門スタッフ、主治医や家族を含めた約6年間の休職から試験入社、職場復帰支援までの試行錯誤の活動と現状の問題点などの報告を行う。

11:50

特別報告 労働者の抑うつ・疲労と脳血流変化との相関

(独)労働者健康福祉機構 香川労災病院
勤労者メンタルヘルスセンター センター長
小山 文彦

労働者健康福祉機構の研究事業として、労働者の抑うつ・疲労蓄積と脳血流変化について、広く普及した脳機能検査法であるSPECTを用いて検討した。抑うつ度及び疲労感に相関した有意な血流低下が認められた。

(12:20～13:20昼休み) 13:20

6 企業内における健康相談室の役割と活動

三菱東京UFJ銀行
健康相談室 室長
手嶋 清澄

企業内におけるメンタルヘルス対応については、産業医・職場・人事・本人の間に入ったコーディネーター的役割を担う専門の部署や担当者が必要である。独立性を確保し、社員が気軽に相談できる窓口機能を併せ持つコーディネーターとしての健康相談室の活動を発表する。

13:40

講演 心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援のための方法等に関する検討委員会報告

京都文教大学
人間学部臨床心理学科 教授
島 悟

本検討委員会において、最近の見地を踏まえ旧手引きの見直しを行った。より円滑に職場復帰を支援するために必要と考えられる事項について、議論を重ねて改訂したポイントについて報告する。

14:40終了